

プール学院報

Poole Gakuin
150th
 FOUNDED 1879
 愛と奉仕

第**93**号

2022年2月・3月
 発行

学校法人 プール学院

〒544-0033

大阪市生野区勝山北1-19-31

TEL.06-6741-7005

FAX.06-6731-2431



2021年12月17日 クリスマス礼拝



クリスマスイルミネーション

CONTENTS

理事長挨拶 1

[中学校・高等学校]

校長メッセージ 2

地域社会の学びから

地球規模の学びへ 3

主な行事 2・3

クラブ等の成果 3

チャプレンメッセージ 4

生徒メッセージ 5

卒業生紹介 5

同窓会だより 6

法人だより 7・8

編集後記 8

ご挨拶

クリスマスの思い出

理事長 磯 晴久 (日本聖公会大阪教区主教)

われらは^{ひかり}東の^{三人}みたりの^{はかせ}博士
 いやしろ^代 たずさえ^{やま} いく^{かわ}山 川
 ああ^{かがや}輝く^{ほし}星よ^{ひかり} くしき^{ひかり}光よ
 われらの行く手を^ゆ照らし^て導け^{みちび}
 (日本聖公会聖歌集 聖歌110番)

この学院報が、皆様のもとに届く頃、新型コロナウイルス感染症はどのようになっているのでしょうか。昨年、皆様は心豊かなクリスマスを、過ごすことができましたか。2022年は、イースターもクリスマスも、世界中の人々が安心して過ごせますようにとお祈り致します。

さて、皆様、クリスマスと言うと、どのような思い出をお持ちでしょうか。私には、ちょっと大袈裟ですが、人生のターニングポイントとなるクリスマスの思い出があります。中学生の時、学校のクリスマス礼拝で、上記の聖歌「三人(みたり)の博士」ユニゾンの部分を独唱することになったのです。当時私はグリークラブに属してはいませんでした。グリークラブの部員はいたはずですが、なぜか音楽の先生から、「磯君、君がやりなさい。」と指名されたのです。

私はそれまで、引込み思案で、人前に立つことや話すことが大の苦手でした。

国語の時間に一人ずつ、「小学校の思い出を語る」と言うことができました。

私はすっかりあがってしまって、途中で頭が真っ白になり、固まって動けなくなるほどでした。そのような私を心配して、音楽の先生が教育的配慮をしてくださったのかもしれませんが、私はクリスマス礼拝では歌うことができました。このクリスマス礼拝をきっかけに、人前で話すこと等々できるようになっていきました。私が、積極的に人生を生きていくことができるようになるきっかけのクリスマスでした。

今、プール学院で学ぶ生徒たちが、クリスマスをはじめとする諸行事や課外活動を通して、人生のターニングポイントとなる経験ができますようにとお祈りします。皆様のプール学院でのクリスマスの思い出を、分かち合える機会があればうれしいですね。(Andrew)



建学の精神とGlocal Study

中学校・高等学校校長 安福 朗



多様性の中で

1879年の創立以来、プール学院は美しい学舎に集う生徒のすべてが、神様から与えられた賜物に気づき、それを生かし、豊かな人生を歩むことができるよう、個性を尊重しながらキリスト教精神に基づいた人格教育を行ってきました。

現在、中学校は3つ、高等学校は4つのコースに分かれています。各コースの特色を超えて実に多様な生徒が学んでくれており、これが学院の大きな財産となっています。

この多様な生徒一人ひとりに対して「居場所」と「出番」を用意することは大変なことです。しかし、自分の通う学校に「安心できる居場所があって、自分の出番もある」と実感できた時、生徒たちは心になやみが生まれ、勉強にもクラブにも前向きに取り組めるのです。すべての生徒が「プール学院には私の居場所と出番がある」と思える学校であることがプール学院の特色なのだと思います。

一方で、多様性だけが強調されると「散っていく」方向へとバラバラになってしまいます。これからは、多様性を尊重したまま求心力に向かって結集していく「Unity in Diversity (多様性の中の統一)」という理念がますます大切なものとなっていくことでしょう。

プール学院の求心力は言うまでもなく神様であり、託された使命である建学の精神とそれを体現するスクールモットーにあります。旧約聖書の詩編に「見よ、兄弟姉妹が共に座っている。なんとという恵み。なんとという喜び」とあるように、異なる者が「兄弟姉妹」の一人ひとりとして、神様を中心の一つとなってハーモニーをつくる姿こそ、プール学院の「Unity in Diversity」に他なりません。

スクールモットーが意味すること

プール学院のスクールモットーは「愛と奉仕」であり、ラテン語に訳すと caritas et ministerium (カリタス・エト・ミニステリウム) となります。

スクールモットーは、建学の精神を分かりやすく体現し、プール学院に連なるすべての人が思いを一つにすることができる「合言葉」ではありますが、それは単なる「標語」ではありません。スクールモットーの大切なところは、その短い言葉の中に学校が育てたいと考える「めざす人間像」が示されているところにあります。

「愛と奉仕」には、プール学院の生徒は、「将来、人から、社会から『あてにされる人』になってほしい」との願いが込められているのです。苦しんでいる人から「あてにされる」には、その苦しみを少しでも軽く

することができる知力がなければなりません。が、知力があることはわかっていても「あてにされない」人がいます。知力があることに加えて、人を愛し人に仕える精神を持った人でなければ「あてにしてもらえない」のです。

毎日の礼拝や数々のボランティア活動、元氣な挨拶や合唱での美しい歌声。知識だけでなく、考える力、伝える力、そして実行する力をつけていくために組み立てられた日々の授業。多彩な国際交流と海外での語学研修などのグローバル教育と、生野区との地域包括協定による地域に根差したローカル教育との融合による豊かなプログラム。これらすべてが「あてにされる人間」への成長を実現する学びとなっています。

Glocal Studyが目指すもの

文部科学省による「地域と協働による高等学校教育改革推進事業(グローバル型)」のアソシエイト校に認定されて3年が経過し、採択されたプール学院の「大阪市生野区から発信する多文化共生社会の実現を目指すカリキュラム」も完成年度を迎えました。

詳しい取り組みについては、別掲の担当者である勝見教諭の文章を是非お読み頂きたいと思いますが、「グローバルな視野で地域(ローカル)の課題を解決できる人間」、「自分の足元を見つめながら国連が掲げるSDGsのようなグローバルな課題の解決を目指す人間」を育てる教育を続けてまいりました。

これまでの3年間の蓄積の上に立って、2022年度から、さらにこの学びの時間を拡大させていくと共に、一部のコースに属する生徒だけでなく、より多くの生徒にこの学びの機会を保障するカリキュラムの充実を図っていきたくと考えています。

飢餓、貧困、環境破壊、差別、紛争などの深刻な地球規模の課題に対して、それを「ひとごと」として見過ごすのではなく、「わがごと」としてとらえ、その解決に向かってチャレンジする精神を持った生徒を育てたい。こう願うのは、プール学院の教育目標が、今までもこれからも、「他者の痛みを思い遣れる美しい人間性」と「その痛みを解決することができる逞しい知力」の両方を育てることにあるからに他なりません。

新たなステージを迎える「プール学院らしい、プール学院ならではの」教育にどうぞご期待ください。

主な行事

4月 5日 入学式／8日 始業の日／22日 避難訓練・新入生歓迎会

5月 18日～22日 中間考査

6月 2日 創立記念日(休校)／
10日 体育実技発表会(全学年・校内グラウンド)／
29日～7月6日 期末考査

7月 6日～11日 高Ⅱ修学旅行(コロナの影響で長崎)／
13日～19日 教会礼拝(各学年個別日実施)／21日 終業の日

8月 23日 高Ⅲ授業開始／
23日～26日 勉強合宿(校内実施)(中学、高Ⅰ・Ⅱ)／
28日 始業の日／30日～31日 実力考査(中学、高Ⅰ)

地域社会の学びから地球規模の学びへ ～Glocal Studyの3年間～

教諭 勝見 昌浩

2019年にグローバル型地域協働推進校の指定を受け、試行錯誤の中でGlocal StudyⅢⅢの授業を展開してきました。高校の学びをより社会に開かれたものとするのがねらいで、学校は地域の行政や大学、企業やNPOとコンソーシアム(共同事業体)を組みます。高校生は地域の課題について知り、議論し、何か貢献できないかとアクションを起こします。生徒の柔軟な感性は、時として大きな成果をもたらします。3年間の実績はプール学院HP Poole Timesや公式Facebookをご覧いただきたいのですが、例えば、日本語弱者を想定して「やさしい日本語」で情報を発信する生野区役所の取り組みにかかわることは、60カ国2万人以上の外国籍住民が暮らす多文化の地域性を知り、行政の働きについて考える格好の機会であるとともに、母語である日本語の使い方を丁寧に省みる学習となりました。

地域の課題はグローバルな情勢につながっています。2020年は学校活動の自由が制限されるスタートでしたが、「以前話した外国人留学生は今どうしているだろうか」という気づかいは、「新型コロナと外国籍住民」というリサーチに進み、やがて「世界の難民もますます困難なのではないか」という想像力につながりました。NPOの難民支援活動とつながり、全校に働きかけて支援物資集めのプロジェクトが立ち上がりました。21年は「飢餓」に立ち向かい、フードロスを減少させるプロジェクトが立ち上がっています。

身近な他者への配慮から生まれる「愛と奉仕」の種は、行政・企業・大

学・NPOとつながり、高校生ができるアクションを考える、という中で大きく育ちます。その経験は、次に出会う課題解決プロジェクトのためのモデルとなります。仲間とチームで解決に取り組むという連帯感に、心強さや楽しさを感じている生徒が多いようにも見受けられます。今年卒業するGlocal Studyの第1世代が最終授業で行った成果発表会では、SDGsの担い手となる意識がはっきり自覚されていました。第1世代は約30名の授業でそれでもよく集まってくれたと感じたのですが、第2・3世代は50名を超える生徒が放課後の任意選択授業であるにもかかわらず週1単位の活動を精力的に行っています。

2019年にグローバル型地域協働校に応募する前の数年、私は多くのスーパーグローバルハイスクール(SGH)の成果発表会を見学する機会を与えられ、ご担当の先生方からそのマネジメントのノウハウを教えていただきました。そこに共通していたのは、「学校が伝統の中で大切にしてきた価値を再発見し教育課程として有機的につなげる」という構想でした。現在も、内外の多くの先生方、コンソーシアムの皆さま、そして何より生徒の主体性に支えられてこの取り組みが進んでいます。

朝の礼拝での
難民支援プロジェクト紹介



クラブ等の成果

<2021年度 表彰団体&個人表彰>

体操部

- 2部・3部大会 7.22
平均台3位 山浦 紗葵(高IB)
個人総合7位 坂上 萌々香(高IF)
- 第76回大阪高等学校総合体育大会 9.18 9.19
個人総合第3位&段違い平行棒優勝
坂上 萌々香(高IF)
- 新人大会 体操競技の部 2部 11.14
女子種目別段違い平行棒第2位
跳馬第3位 坂上 萌々香(高IF)

陸上競技部

- 第76回大阪高等学校総合体育大会
陸上競技の部 3・4地区予選会 7.22 7.23
三段跳び6位 井上 心音(高IIA)
ハンマー投げ4位、円盤投げ6位
池田 亜依(高IB)
ハンマー投げ6位 山内 悠希(高IF)
三段跳び優勝、走り高跳び4位
早川 真央(高IC)

- 大阪高等学校3・4地区夏季陸上競技大会 8.7
三段跳び3位、走り高跳び5位
早川 真央(高IC)
円盤投げ6位 高崎 千春(高IF)
- 第76回大阪高等学校総合体育大会
陸上競技の部 8.21
三段跳び第5位 早川 真央(高IC)
- 第68回大阪私立高等学校総合体育大会
陸上競技の部 8.21
走り高跳び第7位 早川 真央(高IC)
- 大阪高等学校3・4地区秋季陸上競技大会 10.30
三段跳び4位 早川 真央(高IC)
3地区学校対抗 6位 10.30 10.31

吹奏楽部

- 第60回大阪府吹奏楽コンクール中地区大会 7.30
金賞(地区代表)
- 第60回大阪府吹奏楽コンクール大阪府大会 8.13
銀賞

ダンス部

- 第33回全日本高校・大学ダンスフェスティバル神戸 8.13
審査員賞

- 第14回日本高校ダンス部選手権
DANCE STADIUM 近畿・中国・四国大会
スモールCブロック1位 8.7
全国大会出場 8.18

美術部

- 第70回大阪私学美術展 10.31
優秀賞 米田 有花(高IC)
奨励賞 上ノ山 和津子(高IIA)
延山 千亜枝(高IF) 駿河 菜和(高IC)
柴田遥陽(中2b) 谷口 澗(中2b)

高校ソフトボール部

- 第50回大阪私学新人大会 11.21
第3位

高校バドミントン部

- 第14回スマイルカップバドミントン個人ダブルス大会 1.5
準優勝 大西 史夏(II)・森本 侑那(IE)ペア
準優勝 小川 くれは(ID)・永野 優奈(ID)ペア

個人

- 第14回本のPOP広場 10.31
優良賞 田村 桃香(中1a)
特別賞 荒瀬 夏梅(中1c)

- 9月 4日 中学オープンスクール／11日 高等学校説明会(午後)
- 10月 12日～16日 中間考査／
15日～18日 中3 英語合宿(福島)・修学旅行(コロナの影響で東京)
17日 中学プレテスト(第1回)／19日 校外学習(中1・2、高I・II)

- 11月 2日 和太鼓鑑賞の日／3日 高校オープンスクール／
10日 文化祭(高I・II)／11日 文化祭(中学)／
13日 中学プレテスト(第2回)／20日 授業参観
29日～12月4日 期末考査
- 12月 17日 クリスマス礼拝／20日 終業の日

「プール・相馬つながるプロジェクト」 という果実

～東日本大震災から10年～

チャプレン 成岡 宏晃



みなさんは、臨床宗教師という資格をご存知でしょうか。臨床宗教師とは、死期が迫った患者や遺族に対して、布教伝道（仏教、キリスト教など宗派・教派は問わない）をすることなく、公共性のある立場からの専門的な心のケアを行う宗教者です。死への不安、生きる意味の喪失感や罪責感、愛する人を失った悲嘆など、それぞれの心の苦しみや痛みを理解し和らげるための支援を行うことを目指しており、「chaplain（チャプレン）」の日本版として広く認知され始めています。

日本国内においてこのような「魂のケア」の専門家育成が必要とされる発端となった出来事は、2011年3月11日に起こった東日本大震災です。東日本大震災は日本における多くの宗教団体にとって「伝道ではなく、ただ痛みを抱える人たちと共に生きることを目的とする「宗教の本質的な在り方」を改めて見つめなおすきっかけであったと言われています。

プール学院中学校・高等学校にとっても、2011年3月11日の出来事は建学の精神に立ち帰る大きな出来事となったように思います。プール学院にとって東北という遠い地で起こった災害は、心を寄せることがなければ「自分たちには直接関係のない出来事」ととどまる可能性も十分にあり得ました。当時、故井上チャプレンをはじめプール学院に連なる人たちは「他人事として傍観するのではなく、被災された方々のために、私たちにできることを考え行動を起こそう」という声を上げました。

苦しみや痛みを抱えている方々に「寄り添う」ために最も重要なことは、「共感力」であるとよく言われます。「共感」とは、励ますことや応援することよりも、まずは苦しみや痛みを抱えておられる方と向き合い一人ひとりの声に丁寧に耳を傾けること、そして苦しみや痛みを抱える人と一緒にその場にいらしていただくことです。これは、イエス・キリストの生き様そのものでもあります。

きっとそんな思いに駆られて、プール学院からチャプレンと教員数名が相馬市を訪れ、立谷市長の話を聴かせていただくことになりました。目の前で津波に流されていく家族を助けることができず呆然と立ち尽くしていた子どもたちのこと、近所に住んでいる何人もの方が津波に流されている状況を目の当たりにしたこと、慣れ親しんだ町が一瞬のうちに何も無い平地になってしまったことなどを立谷市長から伺ったようです。この現実は何に子どもたちの心に大きな爪痕を残し、PTSD（心的外傷後ストレス障害）等のフォローが必要とされるため、立谷市長は臨床心理士らによるカウンセリング、交流イベントを行う部署（現在の

NPO法人相馬フォロワーチーム)を今まさに立ち上げようとしていたそうです。プール学院には、ぜひそちらへの支援をお願いしたいというお話をいただき、学校として相馬フォロワーチームを支援することを決め、生徒が主体となる活動チームとして「プール・相馬つながるプロジェクト」が発足し、募金活動及び相馬市にある中学校の生徒さんとの交流プログラムを10年に亘り実施してきました。

募金総額は、約1028万円。生徒が直接相馬市を訪れたのは10年の間に2回ほどでしたが、相馬市の中学生をプール学院へお招きして交流をし、ときには生徒同士で手紙のやり取りをさせていただいたことで、10年たっても東北の豪雨災害、大阪北部地震や台風被害の時にはお互いに声を掛け合って励まし合うほど、相馬市はプール学院に連なる人たちにとって、とても身近な存在であり続けました。これは、相馬市の方々にとっても同様でした。

プール・相馬つながるプロジェクトを立ち上げた生徒の一人であった卒業生のNさんから2020年に連絡を受けたときのことで。1年前の2019年に、Nさんは自衛隊員として大雨被害を受けた相馬市に派遣されます。Nさん自身は今まで相馬市に行ったことがなく、在校中自分がどのような地域のどのような人とつながっているのか手探り状態であったことを思い出しながら、相馬市で大雨の被害に遭われた方の入浴支援をしていたそうです。その際、ある一人の方と話の成り行きで自分自身がプール学院の卒業生であることを話すと、その方は被災した直後にプール学院とつながっていた中学校の卒業生であることを嬉しそうに話してくださったそうです。「あの時は、本当にありがとうございます。大阪という場所から私たちのことを心に留めてくれる人がいるということだけで勇気づけられたことをよく覚えています」という言葉は、自衛隊員として被災地に派遣されたNさんに「私がやってきたことは、何も間違っていなかったんだ」と、改めて大きな勇気を与えたそうです。

「プール・相馬つながるプロジェクト」がつなげたものは何だったのか。そのほとんどが、目に見えないものであったかもしれません。また、この取り組みによって何かが劇的に変わったわけでもないかもしれません。しかし、このプロジェクトにかかわった私たちは、苦しみや痛みと共に歩むことの尊さを決して忘れることはないでしょう。これからも、世の中が抱えている苦しみや痛みと向き合い、人とつながり続けていく、「愛と奉仕のプール学院」でありますように。

つながるしな

卒業生 山本 桃華 作成「プール相馬つながるプロジェクト」のロゴ

生徒メッセージ

高校ダンス部

2つの全国大会に出場して

高校Ⅲ年B組 高校ダンス部 中本 千尋

私たち高等学校ダンス部は、6月に新入生を迎え30人を超える大きなクラブに成長しました。公式大会のほか、文化祭やオープンスクールなどでダンスを披露しています。今年8月に行われました「全日本高校・大学ダンスフェスティバル神戸」〈創作ダンス〉では、審査員賞をいただくことが出来ました。今年は、コロナ禍のため限られた時間で作品を創り上げていくという難しさや大変さを身をもって感じた年でした。定員規定の30人という人数で出場できるという喜びは



束の間、練習に入ると技術を教える大変さや一人一人のタイミングや形を揃えることの難しさに直面します。同じところを嫌になるくらいに何度も何度も練習しました。本番が近づくにつれ「素晴らしい作品を踊りたい」という強い気持ち

が加わり、30人が一丸となって練習を重ねました。練習の厳しさは結果として現れました。プールの

名前が呼ばれたときの嬉しさと驚きは表現しようがありません。出場校が目標とする予選、決戦、特別プログラム(受賞作品集)と3度も神戸の大舞台に立つことができたのです。とてもよい経験になりました。

続く「日本高校ダンス部選手権大会(ダンススタジアム)」〈ストリートダンス〉では、予選をブロック一位で通過し、横浜で行われる全国大会へ進むことができました。何度も何度も手直しをし、苦しい練習を乗り越え、勝ち進んだ横浜への切符です。入賞こそ逃しましたが、本番は「全力を出し切った。とても気持ちよかった。楽しかった。」とみんなが感じた色濃い瞬間でした。横浜の舞台はとても気持ちよかったです。

この夏、神戸では30人で大作を踊り切ったこと、横浜パシフィコという大きな舞台で気持ちをひとつにして演じたことは私たちに忘れてられない経験です。充実した高校生活の1ページとして心に残るものとなりました。夏の達成感を感じながら私たち3年生は引退しましたが、この経験を後輩たちに伝え、活動をサポートしていきたいと思っています。今後もダンス部は、観ている人々に躍動と感動を届けられるよう日々努力していきます。



シリーズ
第33回
活躍する
卒業生

イルミネーションデザイン・プランナー
黒木 沙理さん (旧姓 松井)
(第117回卒業生)

クリスマス・イルミネーションをプロデュースして

現在、私は「心を癒すイルミネーションのきらめき」をテーマに、施工も出来るイルミネーションデザイナーとして働きながら、イルミネーションのオフシーズンは保護猫活動をしています。どちらも自分で選んだことですが、心底やりがいがいと使命感を感じています。

ひとつひとつ山場を越える度、喜んで頂けることの幸せや、誰かのために何かを出来るありがたさを直接感じられるからかも知れません。

学生時代は根拠のないプライドはあるのに出来ることが少なくて、自己肯定感が低く悩んだ時期もありましたが、今は自分が良いと思うことを選んで行動を続けているので、毎日とても頑張りがいがあって実りの多い人生になっていると思います。



イルミネーションを取り付けていると、直接反応を見られる事が多くあります。特にプール学院の生徒さんたちは点灯した瞬間に歌い

出したり歓声を上げたり、直接感謝の声をかけてくれたりする割合が他の施設よりも非常に高いです。ビビットな反応を直接感じられるとスタッフの士気もパフォーマンスも上がるので、より綺麗に仕上げるよう最善を尽くすようになり良いループが生まれます。



デザインを変える度に気付いて喜んでくれる生徒さんだったり、じっと佇んで長い時間眺めてくれる生徒さんもあり、中にはイルミネーションを理由にプールに進学したという声が聞こえたこともあり、お仕事している上でこんなに嬉しいことはありません。毎年イルミネーションの取り付けで来校するたびに、プール学院への愛情が増すように感じます。

先日、弊社の施工事例としてプール学院のイルミネーションを関西テレビの番組内で紹介する機会が有りました。主婦層をメインターゲットにしている番組で短い放送時間でしたが、美しい学校として覚えていただける機会になればと思います。

学生時代には大変お世話になり、またご迷惑をおかけした先生方へ恩返しになれば嬉しいです。これからも喜んでもらえて、自分の存在を肯定できるような良い仕事出来る自分でありたいと思っています。この度はお声がけいただきありがとうございました。



ご報告

一般社団法人POOLE
理事長 鈴木 光子
(高73回・小柴)



昨年からの新型コロナウイルス感染拡大により、二年続けて諸行事を中止せざるを得ませんでした。10月の緊急事態宣言の解除により各委員会も開催され、会館も諸集会在再開されています。久々にお目にかかる皆様のお顔は笑顔にあふれ、顔を会わせることの大切さを痛感致しました。

2022年2月は一般社団法人POOLE設立10年を迎えます。今までの歩みを感謝すると共に、学院創立150周年に向けてスクールモットーであり、同窓会の理念でもあります「愛と奉仕」の精神を胸に刻み歩んで参りたいと思います。

来たる5月21日(土)の同窓生の集いには皆さまとお目にかかれますことを楽しみにしております。(2021年12月記)



2021年度 理事役員の顔ぶれ

2021年ミヅパ会の諸報告

プール学院ミヅパ会(短期大学・大学同窓会)
会長 五十嵐 よし子
(高84回・短英26期・佐藤)



皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。昨年に引き続きミヅパ会総会を開催できませんでしたので、誌面にて簡単にこの一年間の諸報告をさせていただきます。

①ミヅパ会ホームページは、リニューアルが必要となりましたので2月末を以て一旦閉じる事と致しました。②監査完了の決算書等は同窓会ホームページでご覧下さいますようお願い致します。③記念文集の発行ですが、ご寄稿等の関係で少々延びるかと思存します。

詳細は、同窓会ホームページにてご確認ください。今後ともミヅパ会活動にご協力賜りますようお願い申し上げます。

会員皆様のご健康を心よりお祈りいたしております。

2022年度

同窓生の集い 5月21日(土)13時

賀寿祝福礼拝 9月10日(土)11時

クラス代表者会開催中止について

常任学年代表者委員会 委員長 桑平 麻由子(高86回・桑村)

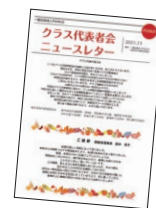
常任学年代表者委員会は新しく野口委員を迎え、計6名で活動しております。

新型コロナウイルス感染状況により今年度も中止した「クラス代表者会」に替わり、4月に新しく着任されました安福朗校長へのインタビュー記事などを掲載したニュースレターをクラス代表の方に郵送しました。

安福校長先生の力強く前向きなお話に、プール学院創立150周年に向けて明るい光が見えてきたように感じました。(ニュースレターは同窓会館でも枚数限定で配布中)



安福校長先生へのインタビュー



ニュースレター

礼拝報告

■ 室戸台風殉難者記念礼拝

2021年9月21日(火)11時より『室戸台風殉難者記念礼拝』が学院内記念碑前で執り行われました。

今回は米国東部支部支部長・内田由里子さん(高92回)も列席してくださり、87年前の台風災害を心に留め神さまに祈りをお捧げしました。



■ 同窓会クリスマス礼拝

2021年12月11日(土)、同窓会のクリスマス礼拝が150周年を迎えられた川口基督教会で行われました。

110名の出席者はパイプオルガンの音色とアヴェマリアの歌声に癒され厳かな礼拝が感謝の内に捧げられました。



予告

同窓会クリスマス礼拝

2022年12月17日(土)14時 川口基督教会にて

※同窓会便りの次号発行は、2023年2月の予定です。

プール学院短期大学記念室

○短期大学記念室開設について

短期大学に関する資料、出版物、記念品等を展示する短期大学記念室を2021年11月1日より開設いたしました。

場 所： プール学院中学・高等学校 清心館のとなり

対 象： 卒業生、旧教職員、学院関係者

開室日時： 原則として月～金 10:00～16:00
(祝日及び学校休業日を除きます。土曜日については応相談。また、平日でも学校行事等によりご利用いただけない場合があります)

申込方法： 「見学申込書」(HPからダウンロードできます)に必要事項をご記入の上、原則、見学希望日の1週間前までにメール、FAX、郵送(必着)にてお送りください。申込確認後、事務局担当者よりご連絡(電話、メール、FAX等)させていただきます。2、3日経ても確認の連絡がない場合は恐れ入りますが電話にてご連絡をお願いいたします。

- お 願 い：
- ① 駐車スペースがございませんので、公共の交通機関でご来校ください。
 - ② 記念室での飲食はご遠慮願います。
 - ③ 見学時間は最大60分、人数は最大6人をお願いいたします。

申 込 先： 学校法人プール学院 事務局 短期大学係
問 合 せ 先 〒544-0033 大阪市生野区勝山北1-19-31
TEL/06-6741-7005 FAX/06-6731-2431
E-mail tandai@poole.ed.jp



○短期大学記念室開設記念礼拝について

2021年9月27日の午後、清心館で磯理事長・大阪教区主教の司式、メッセージで短期大学記念室開設記念礼拝が行われました。新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、学院関係者、ミヅパ会役員等による少数での礼拝となりましたが厳かに執り行われ、短期大学記念室に生命が吹き込まれました。



[プール学院短期大学について]

1. 短期大学に関する窓口(2021年4月～)

学校法人プール学院 事務局 短期大学係

大阪市生野区勝山北 1-19-31

TEL: 06-6741-7005

受付時間：月～金 10:00～16:00

(祝日および学校休業日は除きます。ご来校の際は、事前にご確認ください。)

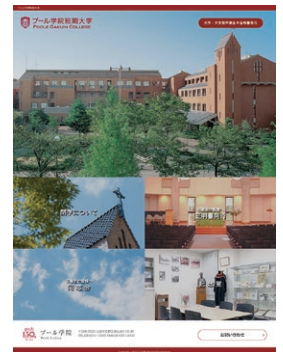
*卒業生の方にもけた新しいホームページを1月から公開しています。

2. 証明書発行

詳細につきましては、ホームページをご覧ください。

3. ご相談やお問い合わせ等

短期大学に関するご相談、ご質問等がございましたら、プール学院 事務局 短期大学係までお問い合わせください。



[プール学院大学・大学院の証明書について]

プール学院大学の卒業生、大学院の修了生の証明書等の発行は、桃山学院教育大学で行われます。

桃山学院教育大学のホームページに右記の通り掲載されていますので、詳細につきましてはホームページをご確認ください。

プール学院大学に在籍しておられたみなさんへ ～証明書発行につきまして～

プール学院大学は2018年4月、設置者変更により学校法人桃山学院が運営する桃山学院教育大学になりました。プール学院大学の卒業生、退学者等に対する各種証明書の発行業務は、2018年4月以降は桃山学院教育大学の事務局で担当いたします。

学院人事

■ 学校法人役員

〈就任〉-2021.8.1付-
常勤理事 桜井 和之

〈重任〉-2021.8.1付-
評議員 阪広久

■ 教職員

〈退職〉-2021.7.31付-
*事務職員
法人事務局長 桜井 和之

〈退職〉-2021.9.30付-
*中学校・高等学校 教育職員
常勤講師 石原 愛花

〈退職〉-2021.10.14付-
*事務職員
専任事務職員 和田 慎二郎

〈昇任〉-2021.8.1付-
*事務職員
事務局次長 中山 浩子

〈採用〉-2021.10.20付-
*事務職員
任期制専任職員 東 周子

■ 訃報

● M. E. Schultz Jr
2021.11.8 逝去
1987.4.1～2013.3.31
プール学院短期大学・プール学院大学 専任教員

● C. M. Purser
2021.12.6 逝去
1952.9.1～1959.3.31
プール学院短期大学 専任教員

● 平野 聡
2022.1.4 逝去
1981.4.1～2002.3.31
プール学院短期大学・プール学院大学 専任事務職員

ご在職中のお働きを覚え、
つつしんで魂の平安をお祈り申し上げます。